

一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいわだて×媛茶屋プラス labo うららかな春公演

Some Other Spring ～いつかの春に～

2022年5月7日・8日実施
媛茶屋プラス labo



【実施目的】

地方には都心部のように、大小沢山の劇場や音楽ホールが有るわけではありません。だからこそ私達「媛茶屋プラス labo」は、地域の方に気軽にアートと触れ合って欲しいという思いから、様々なアーティストらと共に色々な取組を行ってきました。

しかし 2020 年から始まった新型コロナウイルスの世界的な流行により、人類は様々な制約を課せられてきました。

外出や外食に始まり、国内や国外への旅行の制限や禁止。

出来るだけ会話は控えるといった、コミュニケーションの制限。

アーティストは表現の場所を、人々は芸術に触れ合う機会を、奪われ続けてきました。それは私達媛茶屋プラス labo も、例外ではありません。

身体的制限がある中だからこそ、精神的制限はあってはならない。

そんな想いを懐き、芸術を楽しむ時間をお届けしようと思いました。

今回の取り組みは、老若男女・職業・地域を超えて集い、「ひとつの脚本」「同じ設定」でありながら「異なるキャスト」で上演し、三者三様の感性と表現をします。

それにより **アーティストや脚本による表現の多様性、自由さを体感していただける内容**となっております。

上演後にはアフタートークの時間を設け、出演者と観客とで自由に感じたことを話し合い、交流をしながら **「アートを深める場」を育てたい**と考え、企画いたしました。

【脚本】

今回のコンセプトを元にご書き下ろしていただいた「Some Other Spring~いつかの春に~」
タイトルにもなっているビリーホリデーの曲は、この作品の大きなテーマとなっています。

瀬戸内の海を一艘のフェリーが往く

船は、様々な人生を今日も運ぶ

名前も知らない二人が交わり、春の日の一時の物語



<https://youtube.com/watch?v=1nwRPeKJhyc&feature=share>

脚本家、井上さんの作品への思い

「心は思うようにいかないもんね。」

作品の後半に出てくる台詞です。

会いたい、会いたくない・・・

波のように行ったり来たりする心を抱えながらも好きな人との別れを決意して踏み出した女性にかけられた言葉です。

フェリーで出会った年配の女性との会話。

そこには、「頑張れ」という言葉はありません。

揺れる心を優しく受け止める言葉は、かつての自分を励ます言葉だったのかもしれない。

つらかった冬の先にある春の光。

春の白い花が瀬戸内の青い海の上で咲くこのお話は、

希望を胸に前に進む人の背中をそっと支えたい、

そんな想いをこめて書きました。

香川の素晴らしい会場で、俳優陣、観客のみなさんと

こうした思いを共有できたことをとても幸せに思います。



脚本家：井上志保(いのうえ しほ)

岐阜県高山市出身。劇作家

カナダ・オンタリオ州立カールトン大学(社会学)卒業。

社会福祉士。

18年間宮崎で暮らし、戯曲、短歌を学ぶ。

短編を中心に戯曲創作に取り組む。愛媛県松山市在住。

一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいくわだて×媛茶屋プラス labo うららかな春公演「Some Other Spring~いつかの春に~」

【キャスト】

瀬戸内周辺で活動している役者を集め、方言、男女、年齢だけでなく、メソッドも経験も異なる役者の感性と表現の違いにより、同じ脚本なのにまるで違う話のように見える面白さを観客の皆様にご体感していただきました。

また、キャスト同士でも作品に取り組む中で、アーティストの表現の多様性、自由さを体感し学ぶことができました。

嶋尾明奈（しまお あきな） 香川出身東京都在住

カレー女優。クリエイティブディレクター。
大学入学時に、同学演劇サークル「神戸大学はちの巣座」に入部。演技の他スタッフワークも学ぶ。上京し劇団山の手事情社で研修生として参加。修了後は芸能事務所に所属し映像の現場と、年に1~2本舞台に立ち続けた。
「たのしいくわだて」主宰。

「女2」を快演。
相手が変わる度に、女2の年齢も個性も変化して一人の役者で同じ役であっても、その表現方法の多様性を魅せる。



現実を受け止めようとする女2



現実から目をそらせない女2



現実逃避の女2



小倉あんこ（おぐら あんこ）愛媛

「やってみなくちゃわからない！」をモットーに30歳から演劇の世界へ飛び込む。脚本芝居だけでなく即興芝居など、アンテナに反応したところに身を投じ知識と技術を吸収。

現在は即興1人芝居を地元のカフェや食堂で開催して積極的に活動中。媛茶屋プラスlabo代表。

「女1」おおらかな女

明るく笑い飛ばす、そんな逞しさを感じさせる女1を熱演。



一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいくわだて×媛茶屋プラスlabo うらかな春公演「Some Other Spring~いつかの春に~」

瑞穂 実 (みずほ みのり) 岡山

岡山在住。地方アマチュア劇団に所属し、10年経験を積む。その後、地元で1人芝居の自主公演を行う。現在は即興芝居や舞台、声優など精力的に活動中。



「女1」粋な女

言葉とは裏腹に女2を気遣う、そんなやさしさを感じさせてくれる女1を熱演。



小林 誠 (こばやし まこと) 香川

善通寺市在住。
四国学院大学、劇団オムツかぶれ・即興演劇シーズ所属。2015年より定期公演に出演。

「女1」やさしい女

おだやかにそっと女2によりそい、彼女の話に思わず涙する…そんなやさしい女1を熱演。



南口 恵里 (みなみぐち えり) 岡山

ヴァイオリン

3歳よりクラシックバイオリンを始める。高知大学入学をキッカケにギターとドラムでバンド活動始める。ヨーロッパツアーや台湾ツアー、インドネシア伝統文化・紙人形劇で音楽担当など、文化・芸術の分野で幅広く活動中。現在、ミュージシャンとしても数々のオファーを受け、本職の左官職人としてもキャリアを積む。



幕間に即興でヴァイオリン生演奏。
空間に広がるヴァイオリンの音色が作品の余韻をたっぷりと味わわせてくれた。

一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいくわだて×媛茶屋プラスlabo うららかな春公演「Some Other Spring~いつかの春に~」

【アフタートーク】

上演をして終了ではなく、出演者と観客とで自由に感じたことを話し合い、交流をして「演劇の観方」「楽しみ方」を一緒に考え合いました。



アートを深める
場を育む。



お客様からのリクエストにより即興で演奏披露中

ほとんどのお客様がアフタートークにご参加くださいました。そしてほとんどの方がこのような演劇は初体験という方ばかりでした。

そこから
これからも引き続き演劇に触れる機会を積極的に
つくろうと思いました。

一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいくわだて×媛茶屋プラス labo うらかな春公演「Some Other Spring~いつかの春に~」

【アンケート集計】

- 1) ご覧になっていかがでしたか？
とても面白かった (67) 普通 (1) どちらでもない (0)
- 2) 今後このような企画をご覧になりたいですか？
また見たい(62)興味がある作品なら (4) どちらでもない (0)
- 3) 今回、さぬき文化振興財団の助成金採択により500円で観劇にすることができました。このような文化芸術に対する助成金制度についてどう思われますか？
どんどんやってほしい(67)どちらでもよい (0) どちらでもない (1)
- 4) 今回の Some Other Spring ~いつかの春に~の魅力は何だと思われますか？
キャスト (48) 脚本 (37) 演出 (40) 音響・照明 (20)
- 5) 今後どのようなお芝居をご覧になりたいですか？
シリアス (20) コメディ (36) 多種芸術とのコラボ作品 (26) その他 (1)

【参加者様からの感想】

- ・同じ脚本とは思えない3種の違った解釈のお芝居をみて、とても面白かった。
- ・こんなにも演者によって違うのかと思いました。
- ・ステキな時間でした。
- ・ネットで練習して3日で仕上げるのは大変でしょう。アフタートークが車座とは、初めてでした。
- ・暖かさを感じました。
- ・くすぶっていた気持ちが晴れた感じがしました。
- ・キャストの方々とお話しできてうれしかったです。
- ・いつか私も出たいです。
- ・演じる人物がそれぞれ違って、しゃべり方、所作で分かりやすかったです。
- ・三人それぞれに個性、感受性が発揮されてとても見応えがあった。
- ・とても優しい雰囲気が素敵でした。
- ・フェリーに乗っているような気持になった。
- ・次回楽しみです。
- ・それぞれに必死に生きる6人の大人の姿を感じました。
- ・三者三様の人間関係の近さの違いを感じた。
- ・映画を見ているようでした。
- ・それぞれが違う作品のようでした。
- ・次に出る台詞はわかっているけれど、意表を突かれる場面がたくさんありました。
- ・泣けるポイントがそれぞれ違ってにビックリでした。
- ・お芝居も、バイオリンも、生の良さを実感しました。
- ・久しぶりに心動かされ、泣きました。
- ・皆さんがしている水引のアクセサリーもとてもステキでした。

【伊予水引の展示と販売】

愛媛県四国中央市の伊予水引。

舞台が瀬戸内海を行き来するフェリーということもあり、地元の工芸品にも触れてさらに臨場感を持ってもらおうと、舞台美術、また出演者の衣装アクセサリとして使用。

当日は、伝統工芸士の作品も展示して、間近に伊予水引の魅力にも触れてもらった。

2019年に行われた水引結び世界選手権U18の部でチャンピオンになった娘（当時は12歳）に師事を受け、水引結び1級の資格を持つ武村千亜紀が結んだ伊予水引アクセサリの販売も行った。
売り上げは全て公演にかかった費用に寄付する。



【考察】

地方でも演劇をはじめアートを楽しむ文化を広げたいと考え、活動を始めて18年が経ちました。

私が考えている「アートを楽しむ文化」とは、観劇して楽しむことはもちろん、それだけでなく自分も表現者となり表現する、創作することも含まれています。

残念ながら18年経った今でもなかなか広がらず、何度も挫折しそうになっている現状です。

しかし今回、一般社団法人さぬき生活文化振興財団様の文化振興助成金を助成していただくことにより、たくさんの方に私どもの作品を観劇いただき、喜んでいただいた体験は、私にとっても団体のメンバーにとっても大きな喜びとなりました。

上演を終えて、あきらめず続けていく情熱に再び火が灯ったことを実感し嘸みしめています。

お客様からいただいた感想を元に、これからも地域に根差した文化活動を企画実施していきます。

素晴らしい機会を本当にありがとうございました。

媛茶屋プラス labo 代表 武村千亜紀

媛茶屋プラス labo アクセス

* Facebook [媛茶屋プラス labo | Facebook](#)

* アメーバブログ [himechaya-plus-labo のブログ \(ameblo.jp\)](#)

一般財団法人さぬき生活文化振興財団生活文化振興助成金対象事業
たのしいくわだて×媛茶屋プラス labo うらかな春公演「Some Other Spring~いつかの春に~」